

時事新報

世界の建國一にして足らずと雖も凡そ米國の如く安全
幸願なるものはある可らず東の方大西洋の岸を隔て
歐洲大陸の形勢を察すれば獨逸國四方に分離して警敵の
念深く孰れも兵備を擴張して戰爭の威嚇且に夕を保
たざるの憂あり又西の方太平洋を隔て、亞細亞地方
の形勢を如何と云ふも其國勢急に迫りて獨立を企てず
るもの殆ど無れあれども獨り米國は其中間を立て餘く
國權を維持し遂も他に辱けしめらるることなく邦土廣
大にして地味厚く、資本豊にして人智亦敏く人々皆貨
利の道に忙しくして殆ど他を戰爭干戈の沙汰あるを
知らざるもの如し左れば陸海の兵備と雖も名有て實
無く恰も舊態なき樂國なれども外人の容易に之を闖入
せざるは米國の幸福無上なりと云ふべし

然るに米國の人民は更に一步を進めて歐洲列國の形勢
只管戰備を忙しきと雖も其心は商賣の念を起し幸ひ
歐洲に於ては軍器の需用盛んとして何れも之を購ふに汲
みたる折柄なれば此際我米國も於て新奇新制の軍器を
發明製造して大陸諸國に出したらんには利を得ると莫
大ならんとの考を起したるは一朝一夕の故に非ずして
素より工匠工夫を富み其資本も亦豊なる國民なれば機
を觀て諸般の軍器を新造し或は又舊來の軍器に改良を
加へて之を歐洲に輸送したるに其利便歐人驚か
しめたる者少ならず殊に近代戰爭の勝敗は軍器の銳
否如何に依るものなるが故に苟も新奇有用の發明なれ
ば争て之を購ふと各國皆然らざるなきより米人は尙ほ
歐洲列國の危機を利して有利の商賣を試み今日米
國製造業の盛なる中を在りて軍器の製作も其一部分を
占むるに至りたるは明白の事實なりとす

例へば今の戰爭も必要なる軍艦の如きは其構造日々に
改良を加へて一新又一新殆ど際限なき折柄米人は之を
工風を乘らし諸種の新形を造るゝ其創意の妙、歐人を
して往々驚服せしむる者あり又大砲に至りても米國製
の器械は一種銳利にして其射力強くして且つ遠きよ
遠し運送も便利なる等世人の知る所にして殊に近來
より到りては「マイナマイト」砲にて彼の激烈なる爆藥
を利用して新規の砲門を造りたる如き即ち從來の火藥
砲に比すれば非常の力あると論を俟たざる所にして將
來戰爭の依て以て一變すべきは此「マイナマイト」砲
の發明に在るならんとは世論の許す所なり次に又必要
あるは水雷火及び水雷船にして今日まで其製造に有名
なるは英國若くは日耳曼なりしと雖も米人も亦近來は
大に之に工風を凝らしたるより米國形水雷船の裝置構
造は彼の英國製に勝る所も多し最近發明の水雷火又到
りては其工風最も奇にして水中を滑り敵艦に衝突する
其衝力至て劇しく且つ命中誤らざるものを得たりと云

右の如く米國に於ける軍器の製造は盛なるものなれど
も今日迄は専ら歐洲諸國と市場と爲すの考にて東岸の
諸州即ち「ニュー・ヨーク」邊の沿岸に在りて其製造を營
みたりしに近來は西岸諸州も次第に開けて就中桑港は
太平洋の海岸第一の貿易市場たるより顯微なる米人は
已に之に警備し直に太平洋の海岸に軍器製造所を起し
日本支那を始め東洋に於ける軍器の注文を引受け大に
其製造を盛んにするものなるに到り已に桑港にある某
國の軍器製造所は軍艦水雷船の新造形を造り人を東洋

は派して各國の政府と特約を結ばしめんと昨今其計畫
を付き委員をも派出したる由なり且つ軍器の製造は製
鐵の事業に伴ふものなれども製鐵の事業は又鐵道の事
業と密接の關係を有するが故に鐵道事業の盛なる米國
に近時製鐵事業の起る可きは自然の順序にして之に加
ふるに米人の發明工風と資本と技術とを以てするに
は假令今日も速成を見ざるも其盛大を致すは必ず遠
きよ非ざる可し東洋諸國の爲りも購ひても亦便利あり
と云はざるを得ず今日まで我日本に於て軍艦大砲若く
は水雷船を購求するに當りては何れも歐洲諸國に注文
したれども其距離遠くして獨り運送の費より論ずるも
尙且つ不便なるらざりしに今や岸を隔て、桑港の海
岸に斯る軍器製造所の興るに於ては日本人は今後これ
を利用するの工風あらんと偏に我輩の斯る所あり

電報

○秋季講習と秋季大運動會 仙臺十一月四日午後特報
當師團歩兵第十七聯隊及び砲兵第一大隊は秋季講習
の爲め本日秋田へ向け出發せり
第二高等中學校生徒は平岡町なる運動場に於て本日
秋季大運動會を執行せり
○森文部大臣 福嶋十一月四日午後特報
文部大臣森有禮氏は唯今六時五分、米澤より當地に
着し松葉館に投宿せり右の爲め師範學校及び中學校
の生徒は同大臣を出迎へたり
○有志者の宴會 大坂十一月四日午後特報
昨夜當地の有志者博物會會し宴會を催したり來會
者は内外合せて八百餘名ありし

雜報

○肥田御料局長官 去月三十日長野外三縣下へ出張を
仰付られたる同氏は明日午前隨行員と共に出發する
と云ふ
○永山長官 北海道廳長官永山陸軍少將は同道に關す
る事務會議の爲め荒木少佐と共に昨日上京したるよ
と云ふ
○福澤一太郎同拾次郎兩氏の歸朝 像紙上に記した
る如く福澤先生の令息一太郎拾次郎の兩氏は米國にて
多年學問の功を積み本年六月英國に航して夫れより尙
は大陸諸國を漫遊し去る九月二十三日佛國馬耳塞を發
して歸途に就き昨日午前十時佛國郵船「アチヤ」號に
て横濱に歸着したり右に就き東京より福澤先生を始め
兩氏の朋友應接關係の人々凡そ百餘名何れも一
昨日の夜を以て横濱送迎へられに横濱の人を合せ
る高多數の人々相會しながら其歸着を待受けたるは實
は「アチヤ」號は三日の夜一二時頃入港の筈なれはなり
しに同船は神戸を發して以來海上風波を逢ひたるが爲
め進路を妨げられて漸く昨日午前十時に入港したり
斯て兩氏は出迎の人々を誘つて先づ郵船會社の樓上に
暫時休息の後十二時十五分の汽車にて品川に着すれば
應接應接の學生凡そ二百餘名揃ひの整服にて兵
式體操の法に依り整列して喝采歡呼を祝し豫てし
つらに置たる數輛の馬車一百餘輛の人力車に搭して車
輪を流す許りの大雨を凌ぎ午後一時三田福澤先生の邸
内に着たり然るに邸内には居残り學生一同又々喝
采して之を迎へ斯て出迎の人々は福澤先生の宅まで立
食の饗應あり席上福澤先生の謝辭又は來會者の祝辭も
あり一同「シャンペン」酒の灌へたる盃を舉げて兩氏の

無事歸朝と祝し芽出た解散しる由あり兩氏が米國
に赴きたるは今を去る六年以前にして今や學成り名揚
がりて愛兄弟手を携へて歸朝したる事なれば先生一
門の悦び推して知るべきなり
○知事及書記官の歸任 酒井德島縣知事、千田廣福縣
知事、猪鹿倉福岡縣書記官は一昨三日横濱解纜の近江
丸に搭し歸任の途に就きたるよし
○花火見合せ 一昨日は天長節の例として花火の打上
げある筈なるが昭宮の御不豫を渡らせたるを以て花火
の事は遠慮になりたるなりと
○外務大臣の夜會 一昨日は大隈伯が外務大臣とな
りて初度の夜會を鹿鳴館に催はしたり回顧すれば一昨
年迄井上伯が専ら外交の事々當るの際は年々十一月三
日の佳節に與るも亦是れ伯と平生交際ある朝野の紳士
ありしに井上伯職を辭して伊藤伯が臨時大臣を兼ねた
るより昨年の天長節主人も變はり又夜會の賓客も變
りたるに間もなく伯は其職を大隈伯に譲りて大隈伯は
今回初めて夜會の主人公たり昨年の夜會の景況は其頃
の紙上にも記したる通り規模至つて狭く會場も鹿鳴館
ならずして遠遊館あり其招きに與りたるは多く政府中
貴顯の人々にして民間の人とは加はる者も稀れあり
しに殊に昨年の十月の末に掛け在日本の露國公使が何
うの資格を以て東洋問題の起るに際し日本は如何
なる方向を執るべきか心得の爲め伺ひしと云ふ様
の意味あり氣の申し込みを爲したるやよて當路の人々
も其邊の氣遣ひ少からず左れば三日の宴會も一場盛
の色を呈したる由なれば之を今年若くは一昨年より比
する時は同日に云ふ可からざるは論を待たず左れば之を
措て今年大隈伯の夜會を井上伯が年々催はし來りたる
夜會に較べんに別には是どて趣の變りたるにも非ず即
ち内外の貴賓を集め佳辰を祝して歡樂を盡すは彼れ是
れ異なる所あらざれども大隈伯の夜會には其招きに與
かりたる人々の多くは民間人にして先き伯が早稲田
の私邸に催はしたる園遊會と其趣移して天長節に代用
したりと稱するも不可なきは是れ第一の相違なり第二
の相違は伯の自身に關するに非ざれども一昨年と今
年とを較べれば時勢一段の相違ありて一昨年の其頃
は西洋風が紳士淑女の間を吹き廻はししる時節なれば
舞踏も亦盛んにして殊に洋服も流行はれ凡そ宴會に臨み
たる貴婦人にして紋附白襟の日本服を着けたる者は一
人もなきのみか不慣れある舞踏へ前々よりの俄々
稽古よて當夜は又諸紳士と手を携へ舞臺翻々たるさ
あければ鹿鳴館の夜會と共に舞踏の流行も亦起りて以
來處々方々にダンスの稽古類りなるより年若き令嬢は
云ふに及ばず四五十の齡を越したる老婦人にして猶
ほ若きたる西洋踊りに心を向けたる向きも多かりし
に如何なる風の吹き廻はしか文明流の舞踏も順に流行
を減じて其結果は本年大隈伯の夜會も波及し是迄の宴
會には乾度舞踏の先達を以て任じたる某々の如き若紳
士すら今年に宴會に臨みながら舞踏は存せぬと云ふが
如き面持にてトンド振り向もせざる者あり熟練なる人
既に斯くの如くなれば習ひたての若令嬢は猶々人前を
取らひて舞踏せざるも多かる可く樓上の舞踏場は概ね
外人の手を携へて踊らざるを見る迄にて偶々か之に交
じりたる日本人もあれど一昨年と較べれば幾ど少く
更に漸く白襟紋附の和服婦人を見掛けたるは之れを流
行的の人に許せしめれば婦人の服裝進歩したりと云は

れんも亦知る可
歳々賓客も場
混雜なく又
本年は樓下に
松の鉢植を置
氣轉を賞せざ
りの悪かりし
するの一事に
放しにするの
淑女手を携へ
帽子を掛りの
往々に膝に運
入助けられ仕
人は去つて既
けつし後復ひ
は貴婦人同士
然として眞良
構は自身は舞
は別室の左も
時をり窓の隙
せしめれば日
盡さずと云は
年の踊りに初
の紳士淑女
舞踏に比すれば
やうに見えさ
も相分れて互
れ蹴踏すると
あがらも又サ
蹴したりとも
の微笑は無限
陸隊の事を念
る時は起立迄
の組の要する
の兎角に重く
可ならん當日
諸大臣樞密院
遊會に招かれ
爰も注意を起
度を過すが故
殊に外國人の
は何となく見
大隈伯夫人は
手を携へ食堂
ふ腹を膨らし
○ピスマーク候
八日の報より
マーク候の關
活潑なる若年
家に宰相の地
の權を知られ
と紙上に公刊
一ク候は近々
ク伯も退還
導せらるる老

大坂新報社長犬養毅氏に本日歸院の途に就けり